



セネガルの子どもたちに教育を！

バオバブの会 ニュースレター

2017年 No.4
(通巻52号)
9月17日発行

朝夕の風に秋の訪れを感じる季節となりましたが、皆様、いかがお過ごしでしょうか。
今号のニュースレターは、下半期のイベント情報を中心にお届けいたします。
皆様お誘い合わせの上、ご参加ください。お会いできるのを楽しみにしています。

イベント情報

*** よこはま国際フェスタ2017 <http://yokohama-c-festa.org/> ***

日時：2017年10月7日（土）～9日（月・祝日）10:30～16:00

***バオバブの会は8日、9日に出展**

会場：グランモール公園

（横浜市西区みなとみらい3丁目／東急東横線・みなとみらい駅より徒歩3分）

主催：よこはま国際協力・国際交流プラットフォーム運営委員会

よこはま国際フェスタ 2017 プロジェクト

国際協力・国際交流に携わる団体が参加する恒例の「よこはま国際フェスタ」。今年は「アフリカに一番近い都市、横浜」を謳い、例年以上にアフリカの音楽、ダンス、ゲームなどのプログラムが多く用意されています。

バオバブの会は今回も「世界のフード」ゾーンに出店し、セネガルの料理とおやつを提供します。メニューはヤーサ（酸味のあるチキンシチュー）、マーフェ（ピーナッツソースのビーフシチュー）、ベニエ（西アフリカの丸いドーナツ）、アターヤ（セネガルスタイルのミントティー）を予定しています。また、セネガルのママさんグループ作成のケベサック（バッグやポーチ）、アクセサリーや雑貨なども販売します。ぜひお立ち寄りください。

*** チャリティーライブ2017 ***

2015年に続き、2回目のチャリティーライブを開催します。

日時：2017年11月23日（木・祝日）15:00開場 15:30開演

会場：カラバッシュ <http://www.calabash.co.jp/>

（JR浜松町駅より徒歩2分他）

出演者：アブドゥ・バイファル他

入場料：前売り2,500円 当日3,000円（ワンドリンク付き）

Abdou Bayefall (アブドゥ・バイファル) プロフィール



- セネガル共和国出身
西アフリカ伝統舞踊（以下）のプロフェッショナル・ダンサー
- ・ Djembe Dance (ジェンベ ダンス)
 - ・ Sabar Dance (サバール ダンス)
 - ・ Sourouba Dance (ソルバダンス)
 - ・ Thiakaba (チャカバ：竹馬を用いて1本足で踊るダンス)
 - ・ Coumpo Dance (コンポ ダンス：ジョラ族のダンス)

17歳で『Ballet Sinomew』の最年少団員としてモロッコにて初の国際舞台を踏み、Fils du Ballet（バレエの申し子）の愛称をもらう。また、モロッコでBaaba Maal（セネガルの歌手）の目にとまり、ツアーダンサーに加わる。

その後、スペインの『Ballet Africa 2000』に移籍。公演ではダンス、チャカバ、ドラムと一人で3役をこなし、かつ、ダンスの指導を行い、2年間活躍する。

セネガルに帰国後は、『Ballet la Linguere』セネガル国立舞踏団に入団し、3年間ダンサー、コリオグラファーとして活躍する。また、セネガル国立舞踏団にてダンス指導者としての国際免許を取得する。

2002年のワールドカップ 公演のため日本に来日。その後、日本に移住し、ダンサー、ドラマーとして東京を中心に全国各地にてダンスワークショップ・演奏活動を行っている。

* 詳細を読む: <http://m.bayefallrevolution.com/profile/>

* 予約方法等の詳細は、次回のニュースレターでお知らせいたします。

ケベメール訪問報告

(文：R.K)

◆ 高校生のKさんは、夏休みを利用して2週間のセネガル旅行を楽しみ、その際、ケベメールを訪問しました。

首都ダカール周辺を出て、バオバブの木を遠くに眺めながら車で走ること数時間。憧れのケベメールに着いた。車を降りると、ブティック(コンビニ)、電話屋、家具屋などがあつたり、果物やジュースを売る人々がいたり、思ったよりも栄えていることに驚いた。道路には人や物を乗せたロバ、木の下では集まり話をする人々。ほどよく栄え、ほどよく静かな、人も街も豊かなところというのが初めの印象だ。

すこし歩き、ケベサックを作っている工房についた。女性たちは椅子と冷たい水、笑顔でもてなしてくれた。すこしお話をし、作りたてのケベサックを見せていただいた。ケベサックをイベントで出した際の写真を見てとても嬉しそうにしていたことが私も嬉しかった。そのあと皆でセネガル料理であるチェブジェン

囲んで食べた。とても幸せなひと時だった。素敵の方々ばかりで、テランガ(おもてなし)の心にも感動するばかりだった。

しかし、学校へ行かず働く子どもたちがいることや、多少の男女格差があることもなんとなく分かった。全ての人が自立できるような手助けがまだまだ必要だと思った。

それでもケベメールには、日本では忘れがちな人との繋がり大切さ、本当の「幸せ」、思いやりの気持ちなどを感じさせる何かがある。私たち自身も見つめ直さなければならぬものがあるのではないかと思う。今回の経験を通し学んだことや感じたことを大切に、これから過ごしていきたい。そしてまた訪れられる日を楽しみに心に浮かべて。

ジゲン・ヌファルルー (ケベサック製作グループ) のラマトゥさん、ファトゥさんと



ご馳走になったチェブジェン ↓



ケベメール風景



(写真提供 : R.K.)

★★★★ ことわざで開く、アフリカ文化の窓 ★★★★★

第24回 歌とダンス

エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

(訳・文責 水野)

来る11月23日、バオバブの会は、一昨年に続き2回目となるアフリカンミュージックのコンサートを開催します。その日は、会場一杯に太鼓が鳴り響き、たくさんのダンスが披露されることでしょう。そして、アフリカのすべての祭りや催しで行われているように、来場者は、誰でも、希望すればダンスに加わることができます。今回、いつものようにことわざを紹介するのではなく、アフリカの歌とダンスについてお話しするのは、このイベントのことを考えたからです。

皆様はご存知でしょうか。アフリカの多くの国々では、日常のほぼすべての場に音楽が溢れています。昨年春のセネガル訪問の際、私と水野さんは、支援先の学校での視察や先生・子どもたちとの話し合いが、時折、歌とダンスで中断されるのを体験しました。子どもたちや父母の、また、村に誰かがやってきたという噂を聞いて、挨拶するためにちょっと立ち寄ったおばあさんの歌やダンスでした。私たちにあってこれが大きな喜びであったのは、この、ほんの2、3分のレクリエーションのおかげで、その後、再び元気に出発することができたからでした。

このように、アフリカでは、人々はあらゆる機会に歌い踊ります。幸せなときだけではなく。ところによっては、お葬式のときにも歌い踊る習慣があります。

セネガルでは、訪問者を歓迎するため、結婚や誕生を祝うとき、成人の儀式の中で、畑仕事をしながら、また、何かの試合の際などに歌い踊ります。冗談を言い、からかい合うときに、即興で歌ったり踊ったりすることもあります^{注1}。このようなとき、ジェンベやコラがなくても、手近にあるものを、何でも、楽器として使います。例えば、私たちの学校訪問の際には、机や鉛筆やボールペン、手や足踏みを楽器のかわりに使っていました。

歌とダンスには、男性のためのもの、女性のためのもの、子どもたちのためのもの、そして、みんなのためのものがあります。どんなことのためにも、誰のためにも歌い踊るからです。また、歌とダンスは、異なった言葉と文化を持つ人々とのコミュニケーションの道具にもなります。

お母さんは、子どもたちをあやすために歌います。花嫁は、両親に感謝し、父母、兄弟姉妹と離れることを嘆いて歌います。女性は、夫のために、恋人や友人のために歌い、男性は、父母と兄弟姉妹のために、妻や恋人や友人のために歌います。仕事を頑張るために歌うこともあります。小さな子どもたちが寝付くまで、おじいさんやおばあさんが語ってあげるお話の中にも、たくさんの歌があります。自然を、人生を、死を、偉人を、神を歌います。また、雨を降らせるために歌うこともあります^{注2}。さらに、アフリカで生まれたのではないイスラムやキリスト教の儀式の中で、多くの祈りが歌とダンスの形でなされることがあるのも不思議ではありません。それは、ゴスペルの源流がアメリカの黒人社会にあることから説明できます。

プロのミュージシャンやダンサーについてはどうでしょうか。セネガルのプロのミュージシャンは、現在も、かつてと同じようなテーマで歌い踊っています。人々を喜び楽しませ、また、教え導くために。そして、多くのミュージシャンは、政治や経済といった社会問題にも積極的にかかわっています。つまり、彼らは、人々の暮らしや社会の平和を守り、より良いものにしていくことに、自分たちも責任があると感じているのです。そのため、社会的な地位や権力や財力を悪用する政治家や実業家、頑迷で野蛮な宗教指導者、妻子に暴力を振るう人などに対して、強い批判のメッセージをこめた歌を歌います。世界中の政治経済の中で起こる不正にも、非難の矢を放ちます。日常生活の中でも、普通の人々が、社会の決まりを守り、きちんとした

生活を送れるように、助言の言葉を歌います。

このように、家庭の中から、テレビ、ラジオなど様々なメディア、大きなコンサートホール、広場まで、あらゆるところに溢れ、歩きながらでも聞き、見ることができる歌とダンス。アフリカの音楽とダンスは、伝達的手段であるのと同時に、子ども、大人、社会の中のすべての層の人々を楽しませ、教え育てる役割を持っているのです。

最後に、セネガルでよく知られている3つの歌をご紹介します。

子守歌

私の赤ちゃん、大きくおなり。それは私の願いのすべて。
大きくなって、私の苦勞を忘れさせ、
大きくなって、私の涙をふいておくれ。

婚礼の夜、花嫁が両親に向かって歌う歌

お父さん、お母さん、
叱られることも愛されることも、もうなくなります。
あなた方の愛ほどの甘さを知りません。
あなた方の叱責ほどの優しさも知りません。
そして、今夜ほど悲しい夜も知りません。

花嫁の両親が、花婿の両親に向かって歌う歌

約束してください。約束してください。
娘は、私たちの家で不幸だったから、幸せを求めて嫁ぐのではありません。
約束してください。
もっと幸せにではなくても、今までと同じくらい幸せにすると。
約束してください。
私たちは娘を叩かなかったの、あなた方も叩かないで。
私たちは娘を怒らなかったので、あなた方も怒らないで。
私たちがやったように、優しく助言してください。
大切に育てたので、あなた方の眼にも美しい娘になったのですから。
約束してください。約束してください。

注1: <道端の芝居>といわれるものがあります。乗り物の中や道を歩きながら、知らない人との間でも気軽に行われる、からかい合いのことです。日本で暮らすようになってからこれに出会う機会がないので、少し残念に思っています。しかし、私はもうかなり日本人化しているので、<道端の芝居>に遭遇しても、とっさにうまく反応して、そこに加わることはできないと思います。

注2: 雨が降らない日が続く、日照りの恐れがでてくると、神様に雨を降らせてくれるように祈る、<雨乞い>という儀式を行います。男性は女性に、女性は男性に変装し、恐ろしげな化粧をほどこしては、列を作って、太鼓を打ち、歌い踊ります。私は、小さいとき、友だちと一緒に、はやしたてながらこの行列についていった思い出があります。おじさんやおばさんやおばあさんが、悪魔のようなおかしい身なりで練り歩くのを見るのは、とても面白かったです。なお、なぜかはわかりませんが、行列の中におばあさんたちは確かにいたのに、おじいさんたちがいた記憶がありません。

バ オ バ ブ の 会

〒240-0052 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西谷町993 - 35

TEL&FAX 045 - 373 - 0059

HP : <http://the-baobab.org>

代表 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

寄付振込先:

三菱東京UFJ銀行八重洲通り支店普通口座no. 1523673

ゆうちょ銀行振替口座 00200=1 45215